

平成 29 年度技能伝承に取り組む企業の好事例発表及び意見交換会について  
(IT を活用した生産性向上の取組みを実施する企業の好事例発表及び意見  
交換会と同時開催)

技能伝承と IT を活用した生産性向上取組企業の好事例発表及び意見交換会

1. 日 時 平成 29 年 2 月 9 日 (金) 13:30~16:00

2. 会 場 メートプラザ佐賀 大会議室

3. 参加者

座長 (取りまとめ役) 佐賀県技能士会連合会 古藤 賢治会長  
技能伝承好事例発表企業

株式会社ワイビーエム

IT 活用生産性向上好事例発表企業

佐賀冷凍食品株式会社

意見交換企業  
(パネリスト)

株式会社 九州トリシマ 製造

鐘ヶ江 秀樹課長

株式会社 九州コーユー システム部

泓原 敏夫部長

株式会社ワイビーエム 生産技術部部

柴田 岩雄部長代理

佐賀冷凍食品株式会社

古賀 正弘 代表取締役

聴講者 36 社 55 名

4. 技能伝承に取り組む企業の好事例発表

好事例発表① 株式会社ワイビーエム  
生産技術部部長代理 柴田 岩雄様  
「しなもんに魂ばいれろ！」

社内の熟練技能者による指導教育で技能向上を図っていたが、熟練技能者の減少、  
全社的に若返りが進み技能伝承が行い辛くなってきていた。また工場が忙しいため  
OJT による指導時間が取れずに技能向上の目標を達成できていなかった。

解決策

- ・ 専門知識の強化—技能検定を課題とした研修 (ものづくりマイスター派遣制度、  
オーダーメイド訓練 活用)
- ・ 監督/指導者の能力強化— 他社の知見習得 (若手の技能五輪への挑戦、オーダー

メイド訓練、他社工場見学)

2 項目の実施により機械加工職種での技能検定受講者が増加し、これまで 1~2 名の合格者数が昨年は 7 名に増加した。

今後の展開

技能検定の受講者、受検職種の増加させ、合格率の向上により加工者スキルの向上と加工時間の短縮、製品品質の向上を図る。



## 5. 意見交換（パネルディスカッション）では次のような意見が聞かれました

- 作業の正しいやり方 作業標準を使いOJTで教育してるが、若手に「あれ！」というミスが起きる。ベテランがこれまで経験してきた対応力がなかなか伝承できてない。若手中心に技能検定を活用して現場力の底上げを行っている。
- 設備、指導者等の課題がありものづくりマイスター派遣制度を活用して4年間で66名指導をお願いし 半分が技能士資格を取得した。若手の技能向上意識も高まってきてる。今後は自社内で指導が出来る人材の育成を行う。
- 官公庁の仕事が多く 繁忙期には技能者が不足する、閑散期にオフJT、OJTで新人の教育を行い、定期的な業務のローテーションで多能工の育成に力を入れている。
- ものづくりマイスター派遣制度活用で技能検定に挑戦することで、会社の雰囲気が変わってきた。職場での技能向上に対する競争意識、話し合いが増え、打合せの時間が減少し、お互いを認め合う風土が醸成されつつある。
- 最初はできそうな社員を人選し技能検定を強制で受けさせていたが、受講した本人の技能向上の意識が上がり上級や他の資格へも挑戦、周りの40代の社員も刺激を受け資格受験を申し出てくるようになった。経験者が増えることにより、休み時間に技能の話も職場でするようになった。今後工場以外の、会社全体へと広げていきたい。



## 6. ITを活用した生産性向上の取組みを実施する企業の好事例発表

好事例発表 佐賀冷凍食品株式会社  
代表取締役 古賀 正弘様  
「プロの技とITで美味しい冷凍料理を」

見える化による収益力アップ、企業間の連携による取引強化をテーマに業務知識の共有化を図ることにより、中小企業でも可能な受注管理システムの構築を行なった。

熟練社員の経験、判断力をデータベース化することにより、熟練社員への業務集中を回避し、兼務・応援にて社員間の相互補完を拡大した。

当初汎用パッケージソフトをそのまま導入したが、業務ごとの最適化を図るのみで全体的には、業務補完のためのエクセルのマクロが増大し業務が大混乱をきたした。

業務別の個別対応を、業務の標準化とシステム共通化により、全体最適にもっていった。熟練社員が個別に知識として持っている、仕入れ先、得意先との取り決めや、社内常識化している商品、物流知識などを業務知識データベースとして登録、業務別の業務ルールを決めて標準化し、受注データを作成、汎用パッケージへ落とし込むシステムを構築。これにより コストを抑えたシステムの導入が実現、売上が15%増加した。

今後はRFIDを活用した製造作業実績データの収集を行い人員投入等、工程負荷の最適化を目指していくと共に、ALL さが六次化研究会員企業との業務連携にて、HACCP 準拠の新工場を使い国内海外の顧客に商品出荷を目指す。



## 7. ものづくりマイスターがITを活用して生産性向上等に資する実技指導を行った事例

- NC 旋盤、MC 設備の治具や工具等の加工データの作成に、マイスターの経験を活かしている。
- 工場稼働状況を見える化するために、想定できる全ての作業の標準時間を設定する必要があり、経験豊富なマイスターの知見を活用した。

8. 意見交換（パネルディスカッション）では、次のような意見が聞かれました
- ウキクロンソフトを使用し情報共有サイト構築、暗黙知を電子化しようとしている。テキストベースで音声、画像も入力でき全文検索できるので効果的に活用できる品質情報、機械の調整内容 過去の作業トラブル履歴、原因等データベースを社員全員が共有できるようになる。
  - 製造部 工場勤務者すべてにタブレットを持たせている。無線でネットワーク構築  
1 期は 2 年前に溶接業務と機械加工業務 従事者全員にタブレットを持たせて、作業時間の入力を作業員自身が行えるようにした。  
2 期 組立部門に導入、日報をタブレットで入力これまで 2 日かかっていた集計を即日できるようになり、ペーパーレス化と次工程への引継がタイムリーにできるようになった。また作業状況の確認がリアルタイムでできるようになると共に機械の稼働時間と作業時間の集計をデータとして分析できるので工程の改善点が見えるようになった。
  - 困ったことの問題を収集、原因と対策を明文化する。手順書、ルール化に落とし込み、部門間で共有する。  
データベース化で作業担当者の負担を軽減することにより生産性を向上させる。  
業務日報の閲覧で各自の課題、情報の共有を全社で図る。  
季節、産地素材をデータベース化して味を一定に保つ



9. 全体総括（座長まとめ等）
- 各企業の技能伝承の取り組み、IT を活用した生産性の取り組みの貴重な話が聞けた。それぞれ企業で商品が異なるので取組の切り口は違うが、標準作業以外の部分をどう見える化して工程に組み込んで生産性向上につなげるかは共通した取組。
  - 熟練技能者の減少に伴い、いかに若手に技能を伝承していくかについて見える化、データ化等、試行錯誤して努力されている状況がよく理解できた。
  - 今後就業人口の減少に伴い単純作業はAI、ロボットを活用した方向に進むのではないかと。それに備えて熟練技能の伝承はますます重要な課題になると考えられる。